



# たぐすい

TAKUSUI

2000 APRIL No.522

# 4

●トピックス●

第5回全国青年・女性漁業者交流大会  
伊保漁協婦人部が水産庁長官賞を受賞

COLUMN

◆ 家紋三ツ葉葵 ◆

●新入学の子供への文具揃えが用意され、全てに名前を書くのが保護者の仕事になる。クラス全員が同種同型のものを使うから、間違わないための配慮らしいが、新生年は字が書けず読めない子も多いから、もっと判り易い絵模様などにするのが相応しいのではないか。天皇家では新皇様が誕生されると、身の回り品に「お印し」というのを決められるとか、大変に優雅な「暮らしの知恵」だなと感じ入ります。

●「家紋」と呼ぶ紋様が、どの家にも在るけれど殆ど重要視されていない。わずかに葬儀時の挨拶状に付記したり、墓石に彫るとか着物の紋に使う程度のものである。家紋は種類が多く、変化紋が豊富でデザインにも凝ったものが随分多い。動物や植物を描いたり、天文に由来したものや器物を題材に、丸や菱形に図案化した紋様は造形に優れており、考案者の知恵に驚いたり感服したりする。これなど持ち物に使えないものだろうか。

●聖徳太子の頃に発達した家紋は、戦場では陣幕に大きく描き、幟(のぼり)や旗に使ったようだ。陰陽師として名高い安倍清明(あべのせいめい)は、魔除けの呪符と言われるペンタグラム(五角形の星形)を紋章としているが、いかにも謎めいた人物に相応しい不思議な紋様といえる。徳川家康の加茂神社の神紋を借用したもので、氏子のすべてがそれを家紋としているそうだ。あまり騒動しくしていると、「コノ紋所ガ目一入ラヌカ」と叱られるような感じである。

イカナゴと金盞花

あぜ道に金盞花が色づくころ解禁されたイカナゴ漁もそろそろ終漁を迎える。食卓に春を告げるイカナゴは今年も絶品であり、釜揚げの二杯酢を肴に思わず晩酌がすすむ。

春を告げる魚としてふさわしい風味を楽しませてくれる。

気になる水揚げは、例年に比べ漁期は短く減少している。気候の温暖化、産卵場の減少が原因だろうか?いずれにせよ、孫の代にもイカナゴが、豊じょうの海に春を告げることを願いたいものである。

「拓水」は漁協と漁協系統団体を結ぶ「ミニニケーション」の場です。報知したいこと、文芸などみなさんの投稿は大歓迎いたします。裏面の発行所「拓水係」宛送付ください。

COLUMN ..... 2  
家紋三ツ葉葵

TOPICS ..... 3  
第5回全国青年・女性漁業者交流大会  
伊保漁協婦人部が水産庁長官賞を受賞

ズーム ..... 5  
第6回「山田記念賞」贈呈式・祝賀会開催

インフォメーション ..... 6  
漁業者年金の健全化措置について

水試ノート ..... 7  
新酒の有害プランクトン  
〜ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマについて

栽培漁業センターです ..... 8

海区漁業調整委員会だより ..... 9  
普及員だより  
旬の美味い話 ..... 10  
カレイの甘酢あんがらめ

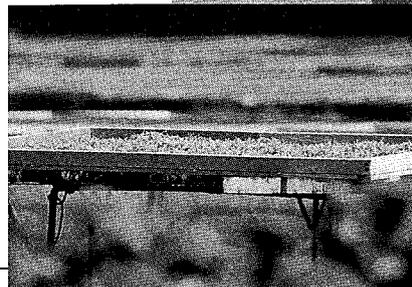
兵庫JCC通信 ..... 11  
JA一次世代との共生を目指して  
JAあぐりキャラバンを開催  
生協「生協経営の今日的課題」を  
テーマに経営研究会を開催

拓水Promenade ..... 11  
巻末エッセイ「音について考える」

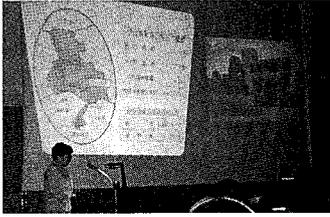
編集後記 ..... 12  
こちら海ですロケだより ..... 12  
子供の健やかな成長を願って...  
奇祭 伝統のねりこ祭り

フォト歳時記

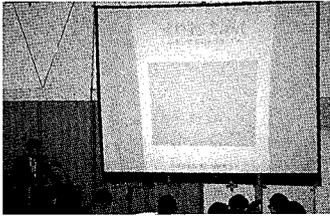
今月の表紙



撮影者  
〈志筑浦漁業協同組合 職員〉  
立山 佳英さん



活動の成果を発表する伊保漁協婦人部



活動の成果を発表する育波浦漁協青年部育水会



水産庁長官賞を受賞した伊保漁協婦人部と事務局

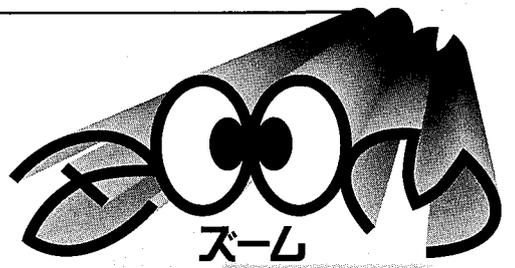
第五回 全国青年・女性漁業者交流大会  
育波浦漁協青年部育水会・伊保漁協婦人部が参加  
**伊保漁協婦人部が水産庁長官賞を受賞**

全漁連主催、全漁婦連・全国漁青連協賛による第五回全国青年・女性漁業者交流大会が三月八日、九日の両日、東京虎ノ門パストラルで開かれました。五十五のグループが日ごころの研究・実践活動の成果を発表し、本県から参加した伊保漁協婦人部が水産庁長官賞に、育波浦漁協青年部育水会が全漁連会長賞を受賞しました。このほか農林水産大臣賞(五名)、水産庁長官賞(九名)、農林中央金庫理事長賞(五名)、全漁婦連・全国漁青連会長賞(五名)、今回初めて設けられた全国漁連海面魚類養殖業対策協議会会長賞(一名)が贈られました(表彰グループ別記)。

交流大会は、内容を五部門(①漁業技術、②増養殖、③漁業経営、④環境保全活動、⑤地域活動)に分け、第二日目に分科会ごとの発表と討論、二日目は「活気あふれる漁業・漁村(いけり)浜における実践活動を担う漁協婦人部青年部」をテーマとする全体討論と、引き続き表彰式が行われました。

**第5回 全国青年・女性漁業者交流大会受賞者一覧**

部門	都道府県名	発表題名	発表者(グループ)	部門	都道府県名	発表題名	発表者(グループ)
農林水産大臣賞	① 漁業技術	北海道	ホタテ貝にやさしい八爪をめざして～コイル爪の開発と成果～	水産庁長官賞	④ 環境保全	広島県	魚類養殖経営安定化への取り組みについて
	② 増養殖	宮城県	ホタテガイ養殖の安定を目指して～地種確保の取り組み～		島根県	海山交流が生み出すかあちゃんパワー	
	③ 漁業経営	大分県	「浜の母ちゃん発 豊の海だより」～未利用資源を活用した特産品づくり～		⑤ 地域活動	北海道	まつり創りで町づくり
	④ 環境保全	岩手県	子どもたちに継がせたい「豊かな漁村づくりをめざして」		茨城県	魅力ある漁業への啓蒙活動～漁業者による小学校の水産教室～	
	⑤ 地域活動	福井県	「婦人部の活性化は地域の財産～漁業研究会との係わりのなかで～」		① 漁業技術	鹿児島県	資源管理型漁業と漁獲物の加工に取り組んで～21世紀へ残したい漁業をめざして～
水産庁長官賞	① 漁業技術	京都府	ズワイガニは私たち底曳網漁業者の宝物～資源管理で増やして獲るズワイガニ～	農林中央金庫理事長賞	② 増養殖	福岡県	有明ノリのくもり解消による単価の向上
		新潟県	小型底曳網(ナンバンエビ曳)の管理基準の自主引上げと販路開拓による経営安定への取り組みについて～組合員(資源管理)と漁協(販売事業)が一体となった経営安定への取り組み～		③ 漁業経営	山形県	鮮魚直売活動でよみがえった婦人部活動～浜の女性パワーによる「元気な浜店」の経営～
	② 増養殖	千葉県	アワビ資源を守り利用していくために		④ 環境保全	宮崎県	浜からのメッセージ 地域に広がる私達の簡素化運動～シンポジウムで確かな手応え～
		北海道	奥尻島における震災後の新たな挑戦～地盤沈下でできた平磯の開発に取り組んで～		⑤ 地域活動	岡山県	元気な仲間を支えられて婦人部活動まっしぐら!～引き継いだ婦人部をより活性化させるために～
	③ 漁業経営	秋田県	つみれ倶楽部の活動について				
	兵庫県	未利用魚の活用から…～浜のかあちゃん奮闘中!～					
<b>全国漁連海面魚類養殖業対策協議会会長賞</b>							
				④ 環境保全	広島県	魚類養殖経営安定化への取り組みについて	阿多田島漁協魚類養殖研究会



# 第6回「山田記念賞」 贈呈式・祝賀会開催

〈財団法人 兵庫県水産振興基金〉



山田記念賞 受賞者の皆さん

## 第六回「山田記念賞」贈呈式並びに祝賀会が、二月二十八日にホテルオークラ神戸で、県下各地から多数の組合長・系統関係者の参加のもと盛大に開催されました。

各受賞者には「天与」と名付けられた漁業者立像(ブロンズ像)が贈呈され、さらに、六名の受賞者には、故山田岸松氏自らデザインによる金バッジが授与されました。

貝原俊民理事長(兵庫県知事)の挨拶の後、来賓を代表して小川守男県漁連会長の祝辞を頂き、さらに、受賞者を代表して、津居山港漁協の眞野豊参事から、これからも本県水産業の発展のために努力したいという力強い謝辞がありました。

引き続き催された祝賀会では、受賞者を讃える出席者の談笑で、会場が賑やかな雰囲気になりました。

## 六名「Zグループ」が受賞

この賞は、「兵庫県水産賞」受賞者並び



受賞者を代表して謝辞をのべる  
津居山港漁協 眞野参事

に兵庫県漁村青壮年婦人活動実績発表大会において優秀な成績を収められた漁協青壮年部・婦人部に贈られるものです。

### 「山田記念賞」受賞者

〔平成十年度兵庫県水産賞受賞者〕

▽林崎漁業協同組合元監事

井上 正順氏

▽福良漁業協同組合元理事

寺岡 博氏

▽柴山港漁業協同組合元理事

木村 武雄氏

〔平成十一年度兵庫県水産賞受賞者〕

▽坊勢漁業協同組合監事

上村 敏一氏

▽丸山漁業協同組合副組合長

小磯 富男氏

▽津居山港漁業協同組合参事

眞野 豊氏

〔兵庫県漁村青壮年婦人活動実績発表大会で優秀な成績を収められた漁協青壮年部・婦人部〕

▽青波浦漁協青壮年部育水会

〔発表課題〕「粒カキ養殖技術導入試験」

▽伊保漁協婦人部

〔発表課題〕「未利用魚の活用から…」  
「浜のかあちゃん奮闘中！」

### 貝原理事長あいさつ要旨

本県水産業の発展に貢献された皆様方、並びに青壮年婦人活動実績発表大会において優秀な成績を収めら



貝原理事長(知事)による挨拶

れた青壮年部・婦人部の皆様方に、心からお喜びを申し上げます。今日までの貢献に対して衷心より感謝申し上げます。

水産業の将来は、水産資源の減少や日本周辺海域の国際環境の変化によつて、漁獲量の減少が危惧されています。かつて、兵庫県の養殖業が、諸先輩の先導的な取り組みで大きく発展し、高い評価を受けたように、これからの水産業には、技術開発による新展開が必要であり、技術開発を積極的に進めるための支援策が重要です。

山田記念賞は、地域水産業の発展のために懸命に努力される人達を顕彰し、後に続く方々の士気を鼓舞する素晴らしい制度です。この賞がもう六回目を迎えることは、故山田岸松さんのお人柄を偲んで創設された制度として、今日まで運営されてきたことの重要性を改めて痛感します。

我々も、本県水産業の発展のために、一生懸命努力したいと思っておりますので、よろしくご協力をお願いします。

## 漁業経営研修会を開催

〈兵庫県漁業経営指導協会〉

去る三月二十一日、神戸三宮六甲荘において「漁業経営研修会」を開催しました。この研修会は漁業経営の健全な育成を図るための経営管理についての知識と、漁業者の収入増加につながる漁協販売事業の新たな取組み事例を研修し、指導員の資質向上と会員の漁業振興施策の立案に寄与することを目的に指導員及び会員を対象に行っています。

今年度は、中小企業診断士の小柴秀代氏、(株)シーフードかがわ統括部長の松田勝成氏を講師に迎え、会員等二十九名が参加しての開催となりました。

開会にあたり指導協会三島会長より主催者挨拶があり、来賓挨拶として県水産課の秋武課長から挨拶がありました。



「財務諸表を知ろう」と題して講演される小柴氏



「漁業経営」をテーマとした講演される松田氏

小柴氏は「財務諸表を知ろう」と題して講演され、その人が運営した結果について、数字で表された企業の姿を知ろう。そのためには、損益計算書、貸借対照表及びキャッシュフローをどうみるか」など、分析におけるポイントを具体的に説明されました。

松田氏は「魚ビジネスの二次産業への挑戦！漁業系統における水産物の販売戦略」をテーマに、大阪市の百貨店で実施している直送販売の事例紹介のほか、「ヒラメき！イカして！アジなことが喜画面力」を手法として現在まで展開してきた魚ビジネスについてエピソードを交えながら講演され、説得力十分な話に時間を忘れるほどでした。

どちらの講演も研修会の目的を十分に満たす内容の話でした。これからの漁業経営を実践する中でできごと活かされるものと思われ

### 機構が変わりました

〈兵庫県漁連〉

県漁連では事業推進体制の充実を図るため、四月一日付で次のとおり機構を変更しました。

本所		新		旧	
指導部漁政課	指導部指導課	指導部組合課	組織強化推進部	(科を廃止)	養殖振興課
のり研究所		播磨支所	播磨給油所(油槽所)	播磨油槽所	

尚、指導部各課の直通電話は旧部署を引き継ぎ

●漁政課：(〇七八)六五一一三四四四  
●組合課：(〇七八)六五一一三四四五

となります。

# 漁業者年金事業の健全化措置について



漁業者老齢福祉共済推進兵庫県協議会  
共水連兵庫県事務所

漁業者年金は、漁業者の老後生活の安定に寄与することを目的に、系統の総意により国の助成を得て、昭和五十六年に発足し「漁業者年金推進協議会」を核とした系統運動により、全国で加入者数十四万人、受給者も二万人近くとなるなど事業の拡大をみております。兵庫県においても、推進協議会を組織し普及運動に努めてきた結果、三千人余りの方々が加入され現在に至っております。

しかしながら、発足当初の予測をはるかに超えた金利の急激な低下と、その長期化等の金融情勢の激変により、漁業者年金の予定利率と年金資金の運用利回りとの間に大きな逆ザヤが生じ、今後の年金事業の健全な運営に大きな影響を及ぼすことが危惧される状況となつてまいりました(図参照)。

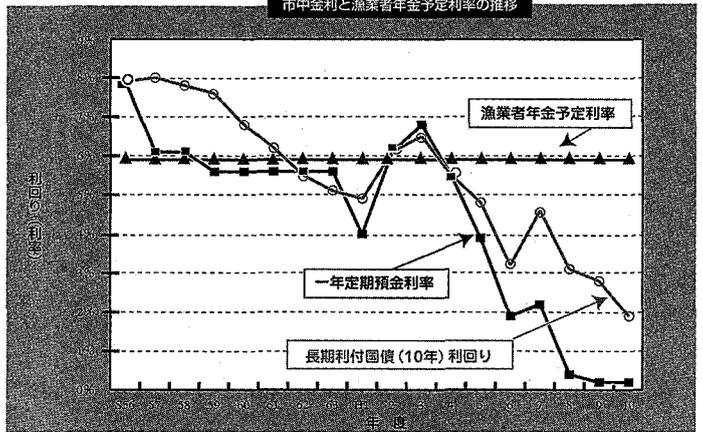
このため、漁業者年金を将来にわたって安定かつ永続的にしていくためには、現在の制度を手直しし、現状に即した内容とする「健全化措置」を講ずることが必要不可欠となり、その方策が検討されてまいりましたが、今般系統としての措置方針が決定されたのを受け、十二月十五日に県立水産会館においてこの内容に関する説明会を開催いたしました。

今回の健全化措置は、加入者の皆様に対して新漁業者年金へ移行いただくことにより、漁業者年金の健全な維持運営をはかつていくこととしており、その概要は次のとおりです。

## (一) 予定利率の変更

※これから新しく加入される方の予定利率は年二%といたしますが、既加入者で新制度に移行いただく皆様には年三%とする事と

市中金利と漁業者年金予定利率の推移



いたしました。

※平成八年四月以降にご加入された方の予定利率は、年三%となっておりますので変更はありません。

※移行に際しては、これまでの予定利率で積み立てられてきた皆様の年金積立金は保証されます。

## (二) 受取年金種類の拡大

年金受取コースを次のように拡大し、移行いただく皆様もご利用できます(年金受取時を選択)。

- ① 増終身コース  
年金額が毎年5%ずつ増えていく年金を終身お支払いします。

## ② 特別支払特約年金コース

六十歳から六十四歳までは①の増終身年金の約二倍の年金をお支払いし、六十五歳からは約三分の一に減額した年金額を終身お支払いします(国民年金の受給開始までを手厚くする制度)。

## ③ 定額終身年金コース(新設)

同じ額の年金を終身お支払いします。

## ④ 確定年金コース(新設)

年金受給者の生死にかかわらず、皆様に選択いただいた期間(五年、十年又は十五年)同じ額の年金をお支払いします。

## (三) 予定利率等の変更制度の新設

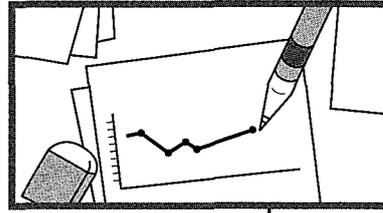
今後の急激な経済情勢の変化に備えて、既にご加入いただいている契約も含めて予定利率を変更することができる制度(基礎率変更規程)を新設します。

今後のスケジュールは各漁協において系統方針(健全化措置)の理解と了承を得いただき、漁協共水連間の新協定書の締結を行います。

その後九月末日までを既加入者の新漁業者年金へ移行の承諾を得る期間といたします。

なお、漁協担当者に対する移行実務の研修会を三月二十一日(二十四日)に開催いたしました。

ご加入者の皆様にはご迷惑をおかけすることとなりますが、漁業者年金を将来にわたって健全に維持運営するための全国系統方針であることをご理解いただきますようお願い申し上げます。



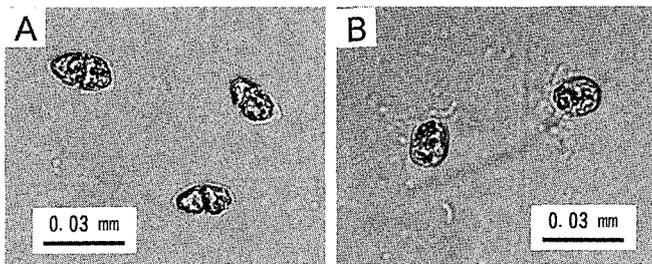
## 新種の有害赤潮プランクトン ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマについて

今回は、近年西日本各地で赤潮を形成し、漁業被害を発生させて問題となっている新種の有害赤潮プランクトン、*Heterocapsa cicutariscapana* (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ、以下ヘテロカプサと呼称する) について紹介します。

ヘテロカプサは、一九八八年に高知県の浦ノ内湾ではじめて発見され、その翌年には福岡湾、一九九二年には三重県英虞湾、一九九五年には広島湾、一九九七年には福井県小浜湾に発生するなど、瞬く間に西日本の各湾に分布を拡大し、アコヤ貝やカキ養殖等に甚大な漁業被害をもたらすようになりました。

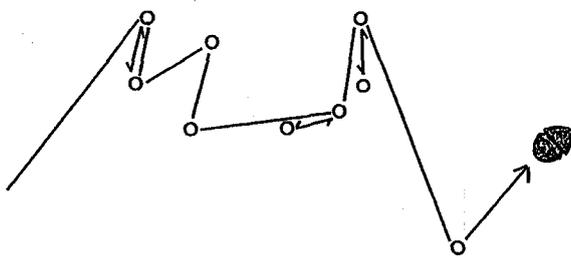
ここでは、シャットネラやギムノデイニウムなど、これまで本県でも頻繁に漁業被害を発生させてきた有害プランクトンと比較しながら、ヘテロカプサの特徴を述べたいと思います。まず、ヘテロカプサがこれまでの有害赤潮プランクトンと最も異なる点は、アサリやカキなど貝類に対してのみ強い毒性を示すことでしょうか。アコヤ貝を用いた実験では、ヘテロカプサが海水1cc当たり二万細胞いれば、約半数の貝が四十八時間以内にへい死すること、アコヤ貝、ムラサキイガイは海水1ccにヘテロカプサが五十細胞いれば、餌が十分にとれなくなり、体力が低下すること等が報告されています。ヘテロカプサの特徴としてもう一つ重要なことは、

自身に適さない環境になると一時休眠細胞と呼ばれる球形の細胞に変形することです。この状態では環境の変化に強く、二十四時間干出された状態でも死滅しません(シャットネラは数時間で死滅する)。また、このような一時休眠細胞は、再び海水に戻してやれば二三日で元の遊泳細胞にもどり、新しい海水中ですぐに増殖できることが実験的に確認されています。近年は、養殖用にカキやアコヤ



ヘテロカプサ遊泳細胞と(A)一時休眠細胞(B)

貝の稚貝が他の海域から他の海域へ人為的に輸送されています。ヘテロカプサが急速にかつ飛び火的に発生域を拡大したのは、貝に付着したヘテロカプサが一時休眠細胞となり、死滅しないまま貝と一緒に他の海域に運ばれたためではないかと言われています。そのため今後は、他の海域から稚貝等を購入する場合、その海域でヘテロカプサが発生していないか確認することが重要です。



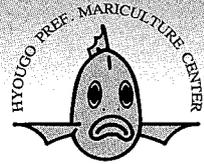
泳ぎ方の一例 (←キツツキ行動)

ヘテロカプサの大きさは、二十〜三十μm前後とこれまでの有害プランクトンに比べて小さめです。しかし、ヘテロカプサは「キツツキ行動」と呼ばれる非常に特徴的な泳ぎ方をし、これが本種を特定する決め手となります。現場海水の顕微鏡観察で突然何かにつつかつたような前後運動を繰り返し、回転しながら泳ぐ小型のプランクトンが見つかれば要注意です。

兵庫県下では、二昨年の十月に播磨灘北部で初めてヘテロカプサの出現が確認されました。また、昨年の八月下旬には福良湾において1cc当たり約九万細胞の赤潮を形成しました。さらに九月には、大阪湾の調査定点でもヘテロカプサの出現を確認しており、本県海域においてもヘテロカプサは年々その分布域を拡大していることが伺われます。本県では平成十一年度から夏期の赤潮調査として、カキ養殖が盛んな播磨灘北西部海域を中心に、ヘテロカプサを主対象とした調査を開始しました。今後、五年間で本県海域におけるヘテロカプサの出現特性を把握し、どのような調査や対策がこのプランクトンにとって最も有効な方法であるか検討していきます。

# 栽培漁業センターです

139



堤防の先、白い曳線を引くイカナゴ漁船が、明るい季節の訪れを語ってくれます。この時期は各事業場とも、ヒラメ種苗生産の真つ最中です。ということので今月はヒラメの卵に焦点を当ててみましょう。

ヒラメの卵は一粒ずつバラバラに表層を浮遊することから、表層浮性卵または分離浮性卵と呼ばれます。水面に浮き続けるのは生きた受精卵で、未受精卵や死卵は時間がたつと沈んでいきます。種苗生産ではこの特性をうまく利用して卵の分別を行っています。親魚水槽から回収した卵の中には、未受精卵が混ざっています。そこでこの卵をいったん卵分離水槽に移し、数分静置させて受精卵と未受精卵に分離させ、そして受精卵だけをすくい上げるのです。これで完全に、とまではいかないものの分別ができて、目的の受精卵を得ることができます。

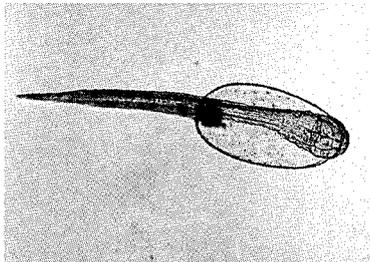
次に、受精卵は卵管理水槽に移します。ここでは、卵が水面に浮いて重なり合わないよう、エアード緩やかに攪拌しながらふ化までの管理を行います。卵はふ化に向けて着々と成長して

いきます。水温十五度では受精後五十から六十時間でふ化します。ふ化した仔魚を稚魚水槽に移し、ようやく飼育開始となります。

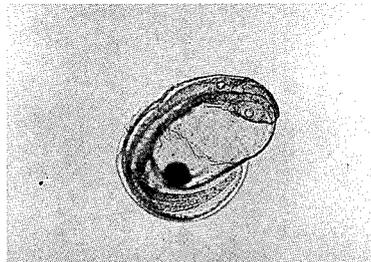
さて各事業場の状況ですが、二見の栽培漁業センターでは、ヒラメが全長十ミリに育っています。また、三月六・七日にマコガレイとアカウニの配布を行いました。但馬栽培漁業センターでは、ヒラメ一回次が全長六ミリ、二回次が四ミリになっています。アワビの平板飼育、サザエのカゴ飼育も行っています。津名事業場では、ヒラメが全長十七ミリになりました。三月下旬にはアカウニの配布を予定しています。

そろそろ自然の海でもヒラメが産卵期を迎えます。そのヒラメが生んだ卵は、ふ化に向けて成長を続けながら、人知れず海原を漂っているでしょう。

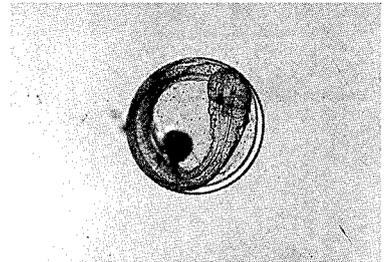
(兵裁協 為後 智康)



ふ化仔魚 (全長2.5mm)



ふ化の瞬間一頭部が出てきている



ふ化直前のヒラメ卵 (直径約0.9mm)

躍動する海  
活動する

## 神鋼魚礁

鋼製

神戸製鋼グループの魚礁メーカー

### 神鋼建材工業株式会社

本社 〒660-0086 兵庫県尼崎市丸島町46-1  
大阪支店 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2丁目6-17(大阪神鋼ビル)

海洋製品室 TEL (06) 6206-7440  
FAX (06) 6222-4904

# 海区漁業調整委員会だより

## 馬海区

二月二十二日  
但馬海区漁業調整委員会  
委員協議会  
(但馬水産事務所会議室にて)

### 【委員会議事】

一、小型いかつり漁業  
(県外船)の許認可取扱方針について  
審議の結果、原案どおり定めて差し支えない旨の答申を議決。

### 【委員協議会議事】

二、但馬海区漁業調整委員会意見の聴取に関する手続規程の一部改正について  
当該規程の改正内容等について説明がなされた。

三、次期沿岸整計画検討のあらましについて  
当該計画の素案について説明がなされ、色々要望等が出された。

### 四、ヒラメの資源解析方法について

漁獲量を年齢別の漁獲尾数に換算した後、コホート解析を用いて年齢組成別の資源尾数を推定する手法について説明を受けた。

二月十七日

## 瀬戸内海区

兵庫県瀬戸内海海区漁業調整委員会・委員協議会  
(兵庫県中央労働センターにて)

一、漁場環境保全推進事業調査結果の概要について  
「漁獲対象生物にとって良好な漁場環境の維持、達成を図るために海域の水質環境の現況を調査すること」を目的として平成八年度から実施された調査の結果について水産試験場から説明が行われ、その後意見交換を行った。

二、平成十二年産イカナゴ漁況予報について  
このことについて、水産試験場から説明が行われ、その後意見交換を行った。

三、兵庫県瀬戸内海海区漁業調整委員会意見の聴取に関する手続規程の一部改正について  
地方分権一括法に係る漁業法の一部改正等に伴う規程の一部改正について、事務局から説明を行った。

この件については、来月の委員会で正式決定する予定。

四、平成十一年度岡山・兵庫県瀬戸内海連合海区漁業調整委員会の結果について  
二月八日に開催された連合海区漁業調整委員会の結果について、事務局から報告を行った。

なお、十二年度の入会協定の内容は前年度と同じであった。

## 普及員だより

### 淡路の自然を舌で満喫しませんか

平成十年四月の「神戸淡路鳴門自動車道」の開通、平成十一年三月十八日から九月十七日まで「シヤパンフローラ」の開催と、淡路島に注目が集まっています。

となっています。

また、島内各種イベント時に多くの方に試食していただく等郷土料理として定着しつつあります。

ぜひ、淡路にお越しの際は、「たごめし」を味わってみてはいかがでしょうか。

北淡路農業改良普及センター  
西野 ゆり

淡路島に來られる観光客は、「新鮮な海の幸、山の幸」が味わえることを楽しみのひとつにしているといえます。

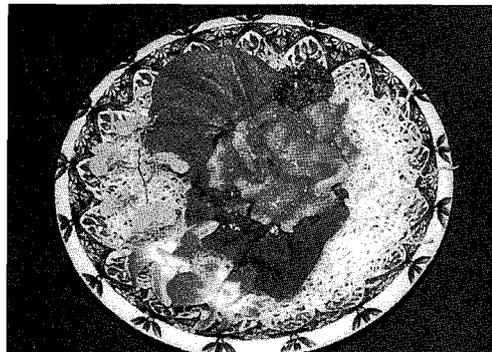
平成九年度に「淡路島の代表メニュー開発委員会」の選定をうけた八つの料理が、島内各所で食べることが出来ます。

その中のひとつに「たごめし」があります。

淡路のたごめしの特徴としては、新鮮な生のたごめしを利用して作ることにあります。炊きあがりには昆布だしのきいたしょうゆ風味であり、たごめしを薄ピンク色に染まったご飯が食欲を満たしてくれる一品



カレイの甘酢あんがらめ



◆材料(4人分)

カレイ 2匹  
はるさめ 50g  
片栗粉 少々  
揚げ油

甘酢あん  
酢 大さじ4  
砂糖 大さじ4  
トマトケチャップ 大さじ3  
酒 大さじ2  
こしょう 少々  
塩 小さじ1/2  
水 大さじ3

◆作り方

- ①カレイは五枚におろして「口大のそぎ切り」にする。
- ②カレイの水気をふいて片栗粉をまき、余分な粉は手ではたき落とす。
- ③フライパンに半分の油を入れ、はるさめを先に揚げる。その後カレイをしっかりと揚げる。
- ④鍋に甘酢あんを入れて煮立て、揚げたての魚をいれ、トロリとしたらゆすりかき混ぜる。
- ⑤皿に揚げたはるさめをひき、その上に魚を盛る。

※外観を良くするために揚げはるさめをひいてみた。ポイント：甘酢あんを先に作っておくと早くできる。

兵庫JCC通信  
今、JA・生協では

JA

次世代との共生を目指して  
JAあぐりキャラバンを開催

次世代のこどもたちに農業とJAについての理解を深めてもらうため、JA兵庫中央会は一月二十六日、神戸市内の小学校の先生を招待し農業生産者との交流会を開催しました。JA神戸市北、JA神戸市西を会場に行われた今回の交流会には、市内の小学校の先生ら関係者三十二名が参加しました。

この交流会は、あぐりキャラバンと名付け毎年中央会が開催しているもの。本年度は昨年九月十日、JA兵庫みかた管内の棚田で行った稲刈りなど中山間地農業の現状を知る体験交流会に続き、今回で二回目になります。

当日JA神戸市北では、最初に藤原長三営農生活部長、南吉次長から北区内の農業の概況と良質米生産の現状報告がありました。次に仲西千鶴子神戸市北JA女性会長から、女性会活動を通じた大豆の生産みそづくりなど女性による農業を発展させる活動の報告がありました。また、阪神淡路大震災直後の会員やJA職員による炊き出しの様子を紹介されました。その後、参加者は米農産物直売施設「米工房」を見学しました。

次にJA神戸市西経済センターでは、山吹正義営農部長補佐から都市近郊農業についての概況報告があった後、JAの農業関連施設を見学しました。また岩岡町のハウスでは、生産現場の現状を視察するとともに、岩岡チンゲンサイ部会佐野忠男部会長が、野菜生産に対する生産者の想いを参加者に語りました。

参加した先生からは「農業の奥深さを学び、学校では非ごどもたちに伝えたい」との感想が聞かれました。

中央会では、今後もJAと連携しながら、次世代や消費者が食料・農業農村についての理解を深める取り組みを進めていきます。



こどもたちに伝えようと、真剣に生産者の声を聴く小学校の先生

生協

「生協経営の今日的課題」を  
テーマに経営研究会を開催

兵庫県生協連主催の「経営研究会」を月二十五日(火)午後一時から五時まで、兵庫県民会館九百一号室で開催し、会員生協の理事・監事、幹部職員が二十五名参加しました。

この研究会は昨年に引き続き二回目の開催となりますが、今回は「生協経営の今日的課題」をテーマに深め合い、各生協が二〇〇〇年度事業計画立案していく上での一助になればと企画したものです。

講師に日本生協連の藤岡武義常務理事をお招きし、二月十八日(火)十九日(水)に東京で開催された全国政策討論集会での論議をふまえて、全国の生協の状況、生協をめぐる情勢、二〇〇〇年度方針の基調と活動の重点課題について講演いただきました。

二〇〇〇年度は「経営構造改革をすすめる、各生協の事業経営基盤を確立する」ことが最重要課題であると同時に「社会的役割をはたす」ことも大切です。それらの政策課題について、今日の情勢や全国の生協の状況等を紹介しながら説明いただきました。

参加者からは、「全国的視野で話を聴き視野が広がった」「生協の現況、これからの生協のあり方、めざすところがよく分かった」「講師の話はとてもしっかりと聞きやすかった」などの感想が寄せられました。



# 巻末エッセイ

## 音について考える

◆風に吹かれて風鈴が鳴っている。仕舞い忘れた音は、時には煩くも感じるが、暑い夏の日に微かに鳴る風鈴に救われたことも何度かある。『風鈴』は、夏の季節語になっているが、いつ頃に誰が考案したのか、音から涼しさを感じるとは生活の知恵と言えよう。風による音として虎落

ある。身を切るような甲高く寒々しい音を響かせていた。また、竹の切り口に水を溜めては跳ね上げる「鹿威し(ししおどし)」のポーンという音色も、突然に鳴って辺りの静寂を破る妙音なのである。

◆大きな瓶(かめ)を伏せて土中深く埋めそこ

笛(もがりぶえ)が冬の季語に選ばれているが、冬の烈風が柵や竹垣に吹き付け、笛のような音を出すことで、以前、鳥取砂丘で聞いたことが

へ水滴を落とし瓶の内側に反響する音を聴くのが「水琴窟(すいきんくつ)」という仕掛け物である。それは夢の響きにも似た微かな音色を立て、風雅な世界へと誘ってくれる。江戸時代の庭師の考案と言われている。人間とはなごつものな事を考えてしまうものと、感心させられてしまうが、明石では月照寺の庭にある。耳を澄ませば、微かに妙なる音を響かせて、風流人の心意気が感じられる。

◆名曲を聴かせせる喫茶店で、流れる音色に聞き惚れている。茶を喫しつつ優雅なひとときが得られるが、風邪っぴきでも咳をするのを躊躇する雲田気である。「ンサート」を聴く大きなホールでも、隣席のちよつとした物音に神経を苛立たせることがあるが、無形の瞬間芸術にとつては、静寂こそが必須であり、折角の名演奏が台無しになってしまうから、少しの雑音も許されない。耳に入る快い音と邪悪な雑音との差は一体なんだろうか。

◆夜更けて風呂に入っていると、潮騒が聞こえたのである。海岸に近い所だから、南風(ませ)に乗って潮のざわめきが伝わって来るのだが、以前はもっと頻りに聞かれたのだった。付近に家屋も少なく、県道と平行して走る私鉄の軌道まで聞こえていたが、いつか住宅も増え電車の音も、潮騒も減多に聞こえて来なくなった。人工の砂浜が人気を得て、夏季の人混みが煩わしかったが、設備の無い砂浜だけでは飽きられたのか、今夏は人影も疎らだった。夜中に花火を揚げられ騒がしいと、柳眉を逆立てたりしたのも懐かしく、人の浮気(ほき)に少々驚いてもいる。

◆「山の音」を聞いたことがある。テントで泊した夜明けに、薄暗がりの中で確かに山の音を聞いた気がしたが、山に音など存在する筈も無い。風に騒ぐ樹々の音でもなく、勿論つくられた音では無かった。脳天にジーンと滲み入るように

微かに震えて聞こえたように思う。ある人は、雪の降る時も音がするというのが、静かに振り積む雪に音などあるとは思えない。しかし、雪が聞かせるという微かな音は、冬の季節語になりそうにも思われる。

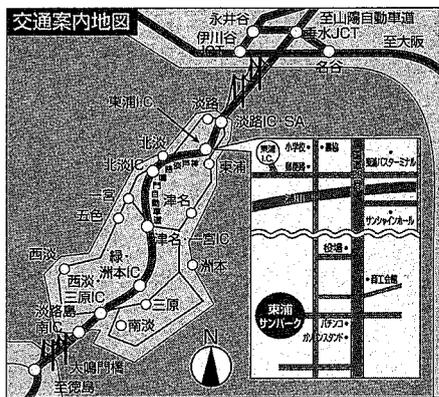
◆街角に立つと嫌でも耳に入るのが車の音だ。激しいエンジン音を轟かせ、疾走する車は暴力的で容赦のない騒がしさである。交差点近くや道路ぎわに暮らす人たちは、これらの音に囲まれている訳だから、どんなに辛じことだろう。時には訴訟されたに発展しても、良い解決策などありはしないが、我慢と辛さを換算して和解を講じるしか仕様が無いのかも…。猫も杓子も車・車の時代である。二家に三台が舞めくような、何とも凄まじい現象が起きている。かく言う私も台持っているが、エンジン音は決して静かとはいえない。(◇)

## 植樹参加者募集

樹木の落ち葉は腐葉土となり、雨が降れば鉄分やリンなどのミネラルに富んだ水を川から海へと伝えます。それはプランクトンを発生させ、魚介類の育成を助ける役目をしています。

漁場を豊かにするには、木を育て森を育てることが出発点。兵庫県漁青連・漁婦連では、次世代に豊かな海を残す一つの方策として漁業者による植樹運動を実施しています。

今回は「ひょうご 森の祭典2000」の会場で行います。日時等は右のとおりです。



日時: 平成12年5月13日(土) 12:30~  
場所: 東浦サンパーク  
(津名郡東浦町久留麻2743)  
植樹: オオヤマザクラ、コウヤミズキ、  
ネムノキ、コデマリ等100本

参加者: 漁協青壮年部・婦人部及び家族100名  
お問い合わせ先: 兵庫県漁協青壮年部連合会 事務局 田中  
兵庫県漁協婦人部連合会 事務局 白木  
(兵庫県漁連指導部漁政課内 TEL 078-652-3444)

## 編集後記

- ◆いよいよ4月。桜・桜・桜。通勤途中にフレッシュマンとおぼしき若者に出会う。初々しい緊張感がこちらまで伝わってきます。
- ◆コラムより 人が作り出す電子音は耳障りなもので、自然の音は心地よく…。ある親日家の、「日本の駅だけは好きになれない」という言葉を思い出しました。

# テレビの おうち 海です



美しく着飾ったおかみさん達



「由良の街かど」  
お祝いの声がかかる「ねりこ」



「丸まげに留め袖」  
ねりこ山口莉史ちゃんのおあかささん朋美さん

【2000年3月12日放送  
第1172回】

## 口々だより

子供の健やかな成長を願って…奇祭 伝統のねりこ祭り  
〈洲本市由良町より〉

大阪湾に面した淡路島の、洲本の市街地から南へ由良街道を約六キロ程行くとこの港町・由良。奇祭として知られる「ねりこ祭り」はこの港町の由良湊神社の春の例祭です。かつては、「ねり子」とあるようにお神輿のあとに、氏子入りした幼児が練り従ったところから「ねり子祭り」と呼ばれるようになりました。当時は「練り子祭り」と漢字で書いていましたが、現在「奇祭」と呼ばれるように先を競って走るようになり、平仮名で「ねりこ」と書くようになったと言われているのです。

もともとは旧正月の二月十四・十五日に行われていたが、神輿や屋台・ねりこに参加する人々に、サラリーマン等の家庭も多くなり、十五日に近い祭日や日曜日に行われるようになりました。このお祭りは数え三才の幼児が主人公で、赤ちゃんから幼児に成長する過程の通過儀礼の意味もある祭りです。

そもそも、現在のようにならしたのは、明治時代以降のこと。昔全国各地にあつたカタクという婚姻の形式が由良にもあり、結婚式をしない場合が多かったのです。由良では数え三才で氏子入りする子供を祝うと同時に、世間に対してお嫁さんを披露する意味でもありました。現在の披露宴のよつなものと、考えて頂いてよいでしょう。

よつな、音言は女性の祭りと言われるおかみさんと呼ばれるねりこの母親は丸髷に留め袖という正装で、又つぎの女性陣も振り袖等で正装、幼児は明へる日の本宮で披露の「ひんぎん」の額や類に十字の赤いマスコと呼ばれるまじないを描いて、正装した女性と共に神社でお祓いを受け、帯を授けられて

を清めます。又、本宮は男性が主役、神事が終わると男性群はねりこの幼児を抱え、八百メートル先のお旅所の戎神社へ「目散り」を競うのです。

先にも書きましたが、神輿に練り従っていたのが走るようになったのは、漁師さんたちの番乗りを競う港町の気風が、いつの頃からか祭りのスタイルになったと云われています。昔は、シャツの上下に鉢巻きでと云う姿が多かったのも走ると云うことで今ではトレーナー姿、これも最初はねりこの父親の母校の体操服が初めだったそうです。

しかし、揃いで走ると目立つ等、段々と派手になり、今では参加する人全員がお揃いのトレーナーと云う所も少なくありません。でも、数は半端な数ではなく、五十人、百人のグループがザラなのです。十、二十万円と安く見積もっても計算してみても下さい…。その上、幼児の晴れ着、おかみさんの留め袖、祭りの終わりにはおかみさんやお嫁さんや孫のお祝いを云うのも喜ぶ。神社の宮司さんのお話の中に、派手になり過ぎた今日、原由を今一度考えてみたいという声も真理のまじないが、いままも、子供の幸せを願う気持ちに皆同じ。伝統の祭り等がすたれていく現在、いつまでも続いてほしい祭りではあります。

因みに今年のねりこは二十七人、本宮参加は十三組。由良の人々はねりこのために働く人々が多いのもおまかせさんが経費が掛かり過ぎて合理的に祭りを祝う、と云うのも否めない現実があります。お爺ちゃんやお婆ちゃんや孫のお祝いを云うのも喜ぶ。神社の宮司さんのお話の中に、派手になり過ぎた今日、原由を今一度考えてみたいという声も真理のまじないが、いままも、子供の幸せを願う気持ちに皆同じ。伝統の祭り等がすたれていく現在、いつまでも続いてほしい祭りではあります。